

これは、2009年11月16日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

「ユーザーにとっての価値」と「革新的生産技術」で最高点をマーク

Press Information

## Eクラス — 2009年のベスト・ボディシエル

2009年11月20日

乗用車ボディを対象とする世界最大のベンチマークコンファレンスとなっているユーロカーボディにおいて、メルセデス・ベンツ Eクラスが「2009年ユーロカーボディ賞」を受賞しました。Eクラスは、約400人の審査員による投票で、最高のボディシエルを持つクルマに選ばれたのです。今年のユーロカーボディは10月末、ドイツのバート・ナウハイムで開催。ジャガーXJ、アウディ R8 スパイダー、BMW5 シリーズ GT など、新型量産車合計9車種のボディを対象にプレゼンテーションと審査が行われました。

メルセデス・ベンツ・カーズ開発部門でフロントエンド・ディタッチャブルボディ製造チームを率いる Dr. Jörg Langner (イェルク・ラングナー)は次のように話しています。「ユーロカーボディは世界中の乗用車ボディの専門家にとって最高の権威であり、この賞をいただいたことを大変嬉しく思います。また、今回の受賞で歴史が繰り返されました。すなわち、ユーロカーボディは7年前から毎年行われていますが、まさにその第1回で先代Eクラスが選ばれたからです」。

今回の受賞の最大の要因は、審査項目のうち「ユーザーにとっての価値」と「プロセス、生産および工場の革新的なコンセプト」の2つの項目でEクラスが最高得票を獲得したことにあります。ボディシエルは、クルマのさまざまな分野の専門家とそのクルマ独自の味付けを実現していく土台となる部分です。ラングナーは今回の審査結果について、「今回受賞できたのは、特定の革新技術が評価されたのではなく、コンセプトが全体として調和していたから」と分析しています。例えば、「ユーザーにとっての価値」では、Eクラスのすぐれた安全コンセプトと快適性、空力特性が高く評価されました。ボディシエルはこれらを実現する上で最も重要な部分なのです。

「ユーザーにとっての価値」がEクラスのボディ開発において常に重視されていることを示す機能や装備は数多くありますが、アクティブボンネットもその1つです。これは歩行者がクルマとの衝突時に負傷する危険性を軽減する装備ですが、その決定的なメリットとして、可逆設計を採用したことが挙げられます。すなわち、駐車時のちょっとした衝突でボンネットが持ち上がってしまった場合などでも、ユーザー自身で簡単にもとの位置に戻し、ふたたびシステムを有効にして走行することができるのです。

これは、2009年11月16日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

Stefan Tritschler (ステファン・トリッチュラー) ボディ生産プロジェクトマネージャーは Page 2  
次のように指摘しています。「お客様の満足度を重視したメルセデスのアプローチは、メルセデス E クラスの生産コンセプトにも容易に見て取ることができます。全ての生産工程において最高の品質を作り込むことで、お客様にとっての究極の価値を実現しているのです」。これを可能にするのが、高度な製造技術と品質保証体制。通常の品質保証体制に加えて、すべての接合作業プロセスを監視し、生産工程の段階ごとにすぐれた品質を確保しているのです。例えば、きわめて高い溶接速度に加え、最高品質の溶接継ぎ目が実現できる最新の RobScan (ロボスキャン) ロボットによるレーザー溶接も 100%監視の対象となっています。なお、メルセデス・ベンツ E クラスのボディの製造過程でこの RobScan 溶接を採用している重要な部分としては、ドア、サイドウォール、リアエンド・センターアッセンブリーが挙げられます。